

令和7年度 多摩市立多摩永山中学校 学校経営方針

多摩市立多摩永山中学校

校長 高橋 篤

1 経営方針

「第五次多摩市総合計画第2期基本計画」並びに「第二次多摩市教育振興プラン(改訂版)」や学習指要領等を踏まえ、本校の教育目標の実現を目指し、生徒や保護者、市民の期待や信頼に応える魅力ある学校を創造する。

生徒や教職員の個性や能力の伸長と発揮、組織としての総合力の向上を図り、グローバル化する社会の中で活躍できる人材の育成を目指した、特色ある教育活動を推進する。

<多摩永山中学校の教育目標>

- 自らを律し、自分の生き方を創造することのできる、人間性豊かな生徒の育成を目指す。
- ・よく考え、知性を磨く生徒
 - ・協力し合い、思いやりのある生徒
 - ・健康で心身を鍛え合う生徒
 - ・自ら実践し、創造する生徒

目指す学校像

これまで本校が大切にしてきた「7つの習慣」を大切にした学びを引き続き重視し、以下の5点を目指す。

- (1)「生徒が大切にされ、夢や希望を抱き、生き生きと安心して学習、生活することができる学校」
- (2)「生徒が好奇心や意欲を喚起され、自ら考え、学び、活動したくなる学校」
- (3)「教員も、生徒も、連携し助け合い、学び合える学校」
- (4)「生徒、保護者・地域、行政から信頼される学校」
- (5)「地域と協働するとともに、体験活動等を通して生徒が主体的に活躍する学校」

目指す生徒像

- (1)学習に意欲的に取り組むとともに、ICT機器も効果的に活用しながら、主体的に考え、自らの考えを伝えたり、他者との対話を通して考えを深めたり、学んだことを積極的に実生活に生かそうとする生徒
- (2)学年・学級活動や学校行事、生徒会活動、学校部活動、ボランティア活動などを通して自らの力・集団としての力を高めるとともに、コミュニケーションを大切にし、工夫・創造しながらより良い行動しようとする生徒
- (3)いじめを許さず、自他の生命を尊重し、心豊かで思いやりのある生徒
- (4)きちんとした挨拶ができるとともに、基本的な生活習慣が確立し、社会の一員としての自覚をもち、正しく判断し、目標をもってねばり強く行動できる生徒
- (5)自らの健康や体力、生活習慣に関心をもち、向上を目指して行動できる生徒

2 実現のための主な取組

(1) 未来を担う生徒を育てる教育の推進

- ① グローバル化する社会をたくましく生き抜く力を育むことを目指し、学習指導要領に基づき創意・工夫ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実な習得を図る。

するために、対話的な学びをとおして思考力・判断力・表現力等を高めるとともに、主体的に学習に取り組む態度を育成する。また、数学や英語の授業では、「習熟度別指導ガイドライン」に基づく少人数学習集団での授業を効果的に行うことにより、個に応じたきめ細かな指導を推進する。

また、日頃の英語科の授業でOnline 英会話やGTEC の実施、中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)の実施・活用をとおして、学習した英語を実践的に活用しようとする態度を育てる。

- ② 本時のねらいを明確化にする。また、授業を振り返る活動をとおして「何ができるようになったのか」「次時に向けた課題は何か」などが明確にできる授業づくり(生徒が『めあてとして目指すもの』が明確な授業づくり)を行う。

するために、学習への興味・関心を高めるために授業の導入を工夫したり、個に応じた指導や発展的な学習を効果的に行ったり、体験的な学習や電子黒板、プロジェクト、タブレット等のICT機器を取り入れたり、学習内容と日常の生活を関連付けること等をとおして、生徒が意欲をもち、主体的に学習に取り組もうとする態度を育てる。

また、個に応じたきめ細かな指導を推進するために、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導を行うとともに、「ミライシード」等も活用し、補充的な学習を行うことにより、基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得を図る。

- ③持続可能な社会の担い手となる生徒の資質・能力を育む。

するために、本校が大切にしてきた「7つの習慣」の習得と、持続可能な社会の担い手となる生徒の資質・能力の関連を踏まえ、ESDの推進をとおして、SDGsに基づく地球的視野に立った様々な課題を相互に関連付ける。また、学習した成果を自らの暮らしや地域の課題と結び付けて考え、他者と協働しながら主体的・積極的に行動しようとする態度を育成する。

(2)安全・安心で生徒が生き生きと活躍できる学校づくりの推進

- ① 学校の教育活動全体を通じて自主及び自律の精神を養うとともに、人権意識を高め、自他の生命を尊重することができる生徒を育成する。



そのために、個人や集団の成長を肯定的に評価し、良い面をさらに伸ばす指導を積極的・組織的に行うとともに、生徒に考えさせる生活指導を実践することをとおして、生徒の自己肯定感や自尊感情、正義感や責任感、改善への意欲等を育む。

また、道徳科においては、「思いやり、感謝」や「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」を重点項目とした道徳科の全体計画並びに年間指導計画に基づき、「考え、議論する道徳」の授業を開発することにより、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育む。

さらに、人権尊重の精神に基づき、全教育活動をとおしていじめの未然防止のための指導を徹底するとともに、言葉で自分の意思を相手に伝えることの大切さや、偏見や差別をなくしていこうとする強い意志をもたせる。また、その際に「多摩市いじめ防止対策推進条例リーフレット」等も活用し、「いじめをしない、させない、許さない」指導を徹底する。学校いじめ防止委員会を核とした組織的な未然防止・早期発見の対応に努める。

特にいじめ問題についてはSNSを利用したいじめが顕在化しにくく、早期対応が難しい現状を踏まえ、未然防止の観点から、セーフティ教室等、意図的・計画的な安全指導をとおして、生徒の非行・犯罪被害防止教育及び通信機器や情報ネットワーク等を適切に活用する情報モラルの育成を推進する。

教職員と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を築くとともに、生徒理解を深め、生徒が正しく判断し、主体的に行動できる社会人としての基礎を学校の教育活動全体を通じて育成する。特に、「挨拶」のできる生徒の育成を重視する。

② 個々の生徒の状況に寄り添い、関係機関と連携した組織的対応を強化する。



そのために、不登校の生徒や不登校傾向にある生徒については、その背景が多様である意識をもって対応にあたる。そのために、個々の生徒や保護者の理解のもと、家庭訪問や、個人面談を学級担任等に限らず、管理職を含む教職員で連携・協力しながら実施する。また、不登校巡回教員、校内別室指導員、3名配置されるスクールカウンセラーといった本校の強みを活かし、個々の生徒の状況に応じた、早期支援並びに保護者や関係機関、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等とも連携した長期化への対応に組織的に取り組む。

また、自殺対策については、校内の教育相談機能を充実させるとともに、3名のスクールカウンセラーの活用及び教育相談体制づくりを行い、「相談できる大人」「不安なときにつながる大人」として生徒を支援する。また、SOSの出し方に関する教育をとおして、生徒がSOSを出せる環境を作る。

- ③ 多摩市特別支援教育推進計画等も踏まえた、将来の自立と社会参加を見据えた、適切な指導や必要な支援の充実に努める。



そのために、特別支援教室指導員や専門員、臨床発達心理士等とも連携して、特別支援教室の効果的な活用を図る。また、特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会が組織的な取組を推進することにより、家庭とも連携し、手立てを明確にした個別指導計画や学校生活支援シートに基づく適切な指導・必要な支援を充実させる。さらに、すべての教育活動をとおして、お互いの個性を理解・尊重し、一人一人が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる資質を高める。

本校が市内唯一の特別支援教室拠点校であることを踏まえ、在籍の学級での学習上または生活上の困難さの軽減や克服に向け、「特別支援教室担当教員と在籍学級の担任との連携」「特別支援教育の専門性等に基づいた指導の充実」を図る。

- ④「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」を踏まえ、社会の一員として意見を表明し、結果にとらわれず、自らの意思で挑戦しながら成長する機会の確保に努める。



そのために、生徒が主体となる集団活動をとおして、望ましい人間関係を形成するとともに、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育成する。特に、ボランティア活動に進んで参加しようとする態度を育てる。

また、地域連携・地域移行を見据えた学校部活動をとおして、個性や能力を伸長するとともに、共生・協働の精神を育む。

(3)家庭・地域とともに生徒を育てる教育の推進・信頼される学校づくりの推進

- ① 社会に開かれた教育課程の実現を図るとともに、学校・家庭・地域が連携・協働した取組を推進する。



そのために、コミュニティ・スクールとして学校運営協議会の開催や、地域学校協働本部、地区青少年問題協議会等との連携を図ることにより、地域と協働し保護者・地域から信頼される学校づくりを推進する。

また、永山小学校及び瓜生小学校との連携を深め、SDGs^⑭「パートナーシップで目標を達成しよう」を共通の取組目標として設定し、9年間を見通した計画的な指導を充実させる。また、令和7年度に開催される多摩市子どもみらい会議においては、本校も多摩永山中学校区として日頃のESDの取組の発表を行うことから、小学校高学年から中学校第1学年への「中1ギャップ」の克服を目指した交流活動の充実を図る。

さらに、地域未来塾において、地域人材等を活用し、放課後や長期休業日中などに補充学習を行い、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。

②様々な教育環境の変化を見据え、持続可能な学校教育を進めていくために、「信頼される学校づくり」に加え、教職員のライフ・ワーク・バランスを含めた学校の取組や、学校が地域・保護者と協働して取り組みたい内容について発信・調整に努める。



そのために、生徒や保護者による学校アンケートや学校公開、保護者会、三者面談等を通して保護者との連携を深めるとともに、アンケート等の結果を生かした教育活動の改善・充実を図るなどカリキュラム・マネジメントに努め、生徒や保護者から信頼される学校づくりを行う。

また、学校だより等学校からの通信物の発行やホームページの更新を行う。

さらに、服務の厳正に努め、保護者や地域からの期待や信頼に応える教育を推進する。